

指笛通信第91号

令和4年11月

公園の落葉樹の色がすっかり変わり、日々寒さが厳しくなってきました。皆様方にはお変わりありませんか。

日本指笛協会、指笛通信第91号をお届けします。今回は、去る9月25日(日)に、4年ぶりに開催された指笛音楽88周年記念コンサートについてご報告します。私は急遽11月号を担当することになりました竹中速雄と申します。拙い文面で申し訳ありませんがご容赦いただければ幸いです。

なお、別にコンサートのDVDが同封されていますのでご覧ください。

指笛楽友会のみなさんと、終演後に。

一緒に音楽をする仲間であり、
時にはアドバイスさせていただく生徒さんでもあり、
(世代的にも)父・母のような存在でもあり、
会えば嬉しいお友達でもある、
私の大切なひとたち



大盛会・大盛況・大成功、
おめでとうございます🌟👏

※この写真は藤好真也さんから提供されたものです。

去る9月25日(日)秋晴れのすばらしい天候にも恵まれ、練馬文化センターにおいて日本指笛協会 指笛音楽88周年記念コンサートが4年ぶりに開催されました。コンサートを支えてくださったボランティアの方々、ピアノ伴奏の先生方、演奏に協力していただいた方々、中村会長ほか出演者の方々お疲れ様でした。今回何よりうれしかったのは、会場の小ホールを埋め尽くす大勢のお客様が駆けつけてくれたことです。舞台から見ますとほとんどの席が埋まっていたので、300人を超えるお客様が来場されたことになります。

まずは終了後のお客様の生の声をご紹介しますと思います。

- ① すばらしい演奏会でした。私たちは指笛を聴くのは初めてですが、これを機会にぜひ来年も聴きに来たいと思います。
- ② 毎年来ていますが、今年は演奏者のレベルが確実に上がっていると感じました。これからも頑張ってください。
- ③ 知っている曲も多くて親しみやすく、また音プログラム展開のテンポが良かったので飽きることなくとてもよいと思いました。
- ④ 沢山の楽器が入る場面もあり、単調さがなく、盛り上がったと思います。ピアノソロ演奏もすばらしかったです。
- ⑤ 指笛だけでなく、草笛やほかの楽器演奏もありましたので楽しいひとときでした。

次に今回のコンサートが盛り上がった要因を考えてみると次のようなことが考えられます。

- ① 台風や新型コロナウイルスの感染拡大の影響で長期間イベントが開催されず、4年ぶりの開催となったことで、お客さまも待ち望んでいたこと。
- ② また、他のイベントも中止、延期が多数あった中で、このコンサート開催が目されたこと。
- ③ 日本指笛協会メンバーの方々が個人レベルでの固定客に加え、多くの介護施設など関係機関に案内状を配布・勧誘を行うなど大変な営業努力をされたこと。
- ④ もちろん、出演者の常日ごろの練習の成果によるレベルアップも見逃せない事

実かと思ひます。

⑤ さらに、すばらしいデザインのコンサート開催案内チラシも集客要因の大きな役割を果たしていたと思ひます。

⑥ なにより関係者の皆さんの一人一人の努力が実を結んだ結果だと思ひます。そしてさらにうれしいお知らせがあります。

次回開催が決まりました

練馬文化センターは改修工事に入るため数年間は使用できなくなりました。そんな中、協会メンバーの方々のご尽力で、来年のコンサート開催場所、開催日が決まりました。

開催日：令和5年（2023年）10月28日（土）

場所：成美教育文化会館「成美グリーンホール」（東京都東久留米市）

最後に

今回のコンサート開催は上述したとおり成功裏に終えることができました。関係者すべての方々のご協力、ご努力のたまものです。特に今回はコロナ禍での開催で不安を抱えながらの開催でした。入場にあたりボランティアの方々や担当の方々がたくさんの入場者を対象にして連絡票を作成配布して回収につなげてくれました。大変な作業だったことと思ひます。ありがとうございました。

運営については会員の中から反省点も多く指摘されました。これらを真摯に受け止め、来年の開催に向けて改善を図り、さらにすばらしいコンサートができるよう切磋琢磨していきたいと思ひます。

最後に、台風やコロナ禍で延期を繰り返しながらも諦めることなく、今回の開催に向けて関係者を取りまとめ、会員諸氏を叱咤激励して開催成功に尽力された中村会長に改めて感謝とお礼の言葉を贈りたいと思ひます。ありがとうございました。

では同封されたDVDもご覧いただき、お楽しみください。これからさらに寒さも厳しくなりますので皆様どうぞご自愛ください。（編集：竹中速雄）

ご参考まで 当日のプログラム (曲名と演奏者) 。

第一部 ① オープニング 明日があるさ 全員

② 柔、線路は続くよどこまでも 坂本一巳、片山陽一、MOK

③ 翼をください、小さな木の実 藤好清晴

④ 叱られて、時の流れに身をまかせ 小林信也

⑤ 指笛の旅 ～日本列島 北から南から～ 全員 (ただし、2～3人で)

芭蕉布、知床旅情、リンゴの歌、東京音頭、ブルーライトヨコハマ、

琵琶湖周航の歌、南国土佐を後にして、長崎の鐘、涙そうそう

⑥ 高校三年生 植松久美子

⑦ 真っ赤な秋、にじ (虹) 佐野紀元 (草笛：賛助出演)

⑧ 指笛の歌、指笛の丘 藤好真也

⑨ 指笛の吹き方 講習 片山陽一、藤好真也

第二部

① ピアノ独奏 エリーゼのために、愛の夢 石塚幸子

② 遠き山に日は落ちて、紅い花 竹中速雄

③ 浜辺の歌、スコットランドの釣り鐘草 牛山宏隆

④ いのちの歌、ハナミズキ 河津菊枝

⑤ 童謡・四季の歌特集 全員 (2～3人で)

ふるさと、花、おぼろ月夜、茶摘み、夏の思い出、村祭り、紅葉、

冬の星座、スキー

⑥ アルプスの山々より (村の娘)、森の水車 片山陽一、MOK

⑦ 帰れソレントへ、オー・ソレ・ミオ 中村倫二

⑧ フィナーレ 花は咲く 全員

(献歌中竹：集韻)

「田村大三先生との出会いと指笛の思い」

晩秋の冷気が肌に心地よく感じられるこのごろ、皆様には以下がお過ごしでしょうか。前回の指笛協会通信で掲載出来なかった方の想いをお伝したく、ご本人にご了承を頂き、さらに今回の担当の方の了承を得て、掲載する運びとなりました。

(編集: 松本京子)

目次

私の指笛の 24 年間 P1～P3 倉木成伊知

私の指笛の24年間

私は、昨年（2020年、令和2年）7月に24年間続けた指笛演奏をやめることになりました。

この24年間を振り返り、指笛への想いを書かせていただきます。

◆田村大三先生との出会い

楽器の演奏には子供のころから興味がありました。しかし、小学生の時のハーモニカもあまり上達せず、高校生の時に、初めたクラリネットも、一人で自己流で吹いていましたが、まともな練習もしないため、長続きもせず、中途半端のままで終わっていました。その後も、楽器を演奏する楽しさは忘れ難かったのですが、練習に時間を割く余裕もないまま40代になった頃に、昔、テレビで見た指笛演奏のことを思い出しました。それは、おそらく、NHKの「私の秘密」に出演した田村大三先生だったのかと思います。

「そうだ、あの指笛なら、楽器を使いこなすための面倒な練習をしなくても、音楽を演奏できるのではないか」と浅はかにも考えた私は、なんとか指笛を覚えたいと思い、本がないかと探したりしていました。そんな時に、新聞の片隅に、近々、指笛の演奏会があるとの記事を見つけたのでした。そして、とうとう1996年の5月、新宿の安田生命ホールで生の指笛の演奏を聴くことができました。演奏会の最後の田村大三先生の熱演（アルルの女の神の子羊）に感動し、「指笛で、こんなにも素晴らしい音楽を演奏できるのか！ぜひこの指笛を自分のものにしたい」と思い、すぐに、田村先生のお宅に伺い入門させていただきました。

◆すぐに上達も、その後、長年の停滞

その後、毎週、大泉学園の田村邸に通い、1ヶ月で音が出るようになり、田村大三先生、静海先生、石原泉先生や、中村倫二さん、杉田さん、峯村さんなど諸先輩方のご指導のもと、少しずつ腕（指？）を上げ、発表会にも出させてもらえるようになり、3年で中等科を卒業できるまで上達しました。

ところが、その後、仕事上のトラブルのため、指笛どころではない状況に陥り、指をくわえ音を出すことも全くない期間が続きました。数年後、息子の結婚式に指笛演奏を頼まれたことで復活した後も、仕事の多忙さに、普段はほとんど吹くことがなく、年に一度の発表会の直前になって一夜漬けの練習で発表会に臨むような状態を20年以上続けてきて、ほとんど上達せず、停滞したままでした。

◆再び上達し始め、指笛を極めるか？

そんな中、2018年（平成30年）の発表会の後、声をかけていただいた同県人の村山壮人さんが主催する練習会に参加させていただくことになり、毎月1回指笛を練習するようになりました。ちょうど仕事も落ち着いてきた時期だったので、これがきっかけになり、もう一度、自分の指笛を見直そうと思い立ち、指の角度や向き、舌の使いかた、唇の締め方など徹底的に研究し、集中的に練習した結果、今まで漠然と吹いていた指笛の原理や技術を、改めて深く明確に理解し、実践できるようになってきました。そのことにより、音量も増し、音域も広がり、音程も安定してきて、さらに音楽的な表現力も付いてきたように感じ、ワクワクしながら指笛練習に励む日が続きました。

そして、その研究の成果を、ビギナーにわかりやすく伝え、音が出せる人を一人でも増やしたいとの思いから、指笛のテキストを作ることを思い立ち、コロナ禍でステイホーム期間になった2020年のゴールデンウィークに、集中的にパソコンに向かい、「指笛演奏ポケットブック（初級編・中級編・上級編）」の3部作を完成させました。この度、初級編を日本指笛協会から発行していただくことになり、この通信に同封して皆様に配布していただきますので、ぜひご覧になって、お役立て下さい。お友達や生徒さんに配るために追加

の部数が必要な方は、下記までご連絡ください。無料で配布しています。

(事務局長) 中澤宏則 tel : 048-462-5592

◆絶頂期にまさかの災難が！

ところが、指笛演奏ポケットブックを完成させた直後に、予期しない災難が降りかかってきました。突然耳鳴りを発症したのです。このしばらく前から、練習の後10分～20分ほどの間、耳が「キーン」となり続けることがあったのですが、そのうち無くなるので気にしていなかったのですが、この「キーン」がいつまでも止まらずにずっとなり続けるようになったのです。気になって、医者に行くと、「耳の中の感音部（蝸牛）」が、大音量に繰り返しさらされたために損傷して、耳鳴りを発するようになったものと思われます。これは、一度発症すると良くなることはなく、今後、指笛を続けていると、さらに悪化し、いずれは難聴になってしまいますよ。もう指笛はやめたほうがいいですよ。」と言われてしまいました。これはショックでした。長年指笛をやっている先輩の中に難聴になった人がいると聞いていましたが、まさか、自分がそうなるとは思っていませんでした。それから1週間悩みました。そして、無理して続けることを諦め、医者忠告に従って、指笛をやめる決断をしました。そして、以前から興味があった口笛に転向することにしました。口笛なら、指笛のような大きな音は出ないので、耳鳴りが悪化することはない、続けられると考えたのです。

◆指笛への未練が・・・

それから約1年間、指をくわえて音を出すことは一切やめて、口笛の練習に専念してきました。口笛は、音を出すこと自体は難しくはないのですが、それだけ、上手に吹くのはなかなか難しいものです。指笛のような大きな音は出せず、迫力に欠ける面はありますが、逆に繊細な表現ができるのがいいところだと思って取り組んでいます。

つい先日、久しぶりに、指笛の仲間が集まって練習する場に出る機会があったのですが、みんなの指笛演奏を聞いていると、改めて指笛のすばらしさを思い出し、自分も吹きたくなってしまいました。田村大三先生の演奏に感動し、先生のように吹けるようになりたいと思って24年間吹き続けてきた指笛への未練は、簡単には断ち切れないようです。

私は、もう指笛を吹くことはありませんが、指笛楽友会、日本指笛協会の皆さんが、研鑽に励み、指笛を吹ける人を少しでも増やし、指笛の輪が広がってゆくことを、ずっと応援していくつもりです。

そして、私自身は、指笛への未練を胸に抱えながら、口笛を極めるまで頑張りたいと思っています。

（追伸1）耳鳴り、難聴を防ぐために

残念ながら私は耳鳴りのため指笛をやめることになってしまいましたが、指笛をやる人がみなそうなるわけではありません。耳鳴りは私の無知と愚行の結果です。私の経験から、耳鳴り、難聴を防ぐために気を付けていただきたいことをお伝えします。

（1）（高音）×（大音量）×（繰り返し）の三重奏が危険！

特に、（高音）には気を付けてください。千葉の峯村さんのグループでは、耳鳴り、難聴を防ぐために、高音は（レ）までに抑えているそうです。私は、そんなことは知らず、（ラ）まで出るようになって、うれしくなって高音ばかり、それも大音量で吹いていました。

（2）大三先生の「メガホンスタイル」には大事な意味があった！

大三先生は、音を出す側の手（吹き手）にもう一方の手（空き手）を添えるメガホンスタイルを確立しましたが、これは、音を遠くまで届かせる目的や見た目のバランスをとるためだけでなく、大音量から

耳を守る意味もあったのです。私はそれを知らず、(空き手)を使って打楽器を叩いたりしていましたが、耳鳴りを発症した後、大三先生が、このことに言及していたことを知り、「もっと前にそのことを知っていれば…」と悔やんだものです。

指笛をやる皆さんが、私の二の舞を踏むことなく、指笛を楽しみ、広めていただくことを願っています。

令和3年8月5日

(追伸2) 口笛世界大会シニア部門で2位に入賞

2022年10月8日に開催された第45回口笛世界大会WWC2022に参加し、シニア部門で2位に入賞しました。24年間の楽友会での経験が生かされたものと思います。ありがとうございました。

令和4年10月8日 倉木 成伊知